



条虫までカバーする フィラリア予防薬

条虫類を含む6種の寄生虫を、一粒で駆除できるフィラリア予防薬です。

ワイドな効能

フィラリアと同時に、
線虫類と条虫類までを駆除。
近年、重大な脅威となっている
エキノコックスまでカバーする、
日本で唯一のフィラリア予防薬です。



信頼の有効成分

主成分は、**ミルベマイシンオキシム**と**ブラジクアンテル**。
新たな成分**ブラジクアンテル**が加わって、条虫類までカバーできるようになりました。

■有効成分による効能の違い

	犬糸状虫	犬回虫	犬鉤虫	犬鞭虫	瓜実条虫	多包条虫
ミルベマイシンオキシム +ブラジクアンテル	★	★	★	★	★	★
イベルメクチン +ピランテル	★	★	★			
モキシデクチン	★					

インターセプター[®]S チュアブル S・M・L・LL

犬糸状虫症予防・消化管内寄生虫駆除剤 動物用医薬品 要指示医薬品 指定医薬品

成分及び分量

1錠中にそれぞれ次の成分を含有

	ミルベマイシン オキシム	ブラジクアンテル
インターセプターSチュアブル S	2.3mg	22.8mg
インターセプターSチュアブル M	5.75mg	57mg
インターセプターSチュアブル L	11.5mg	114mg
インターセプターSチュアブル LL	23mg	228mg

効能又は効果

犬：犬糸状虫の寄生予防並びに犬回虫、犬鉤虫、犬鞭虫、瓜実条虫及び多包条虫の駆除

用法及び用量

体重1kg当たりミルベマイシンオキシムとして0.5mg、ブラジクアンテルとして5mgを基準量として1回、食餌と同時に又は食後に経口投与する。犬糸状虫の寄生予防を目的とする場合は、蚊の発生から蚊の発生終息1ヵ月後までの期間、毎月1回、1ヵ月間隔で投与する。体重別には、次の投与量による。

体重	投与量
1.0kg以上 4.5kg以下	インターセプターSチュアブルSを1個
4.5kgを超え 11kg以下	インターセプターSチュアブルMを1個
11kgを超え 22kg以下	インターセプターSチュアブルLを1個
22kgを超え 45kg以下	インターセプターSチュアブルLLを1個
45kgを超える場合、上記の錠剤を適切に組み合わせる。	

使用上の注意

【基本的事項】

1.守らなければならないこと

- (一般的な注意)
- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
 - 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
 - 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

(犬に関する注意)

- 本剤は犬以外の動物に使用しないこと。
- 本剤は犬によく噛ませるようにして与えること。普段から食物を噛まずに飲み込む傾向のある犬には、本剤を細かく割ってその全てを与えること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2.使用に際して気をつけること

(使用者に対する注意)

- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けること。
- 本剤の有効成分は、有機溶剤等に溶解した場合等、溶液の状態においては皮膚から吸収されることが知られている。分割時に皮膚に付着した場合には、直ちに石けんで洗い流すこと。
- 多包条虫は人獣共通感染症であるので、犬で多包条虫感染が確認された場合は、直ちに医師の診察を受けること。

(犬に関する注意)

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

【専門的事項】

①警告

- エキノコックス症については、飼い主の安全の確保及び感染拡大防止のための対応を飼い主に指導するべきである。詳しくは厚生労働省ウェブサイト(犬のエキノコックス症対策ガイドライン2004-人のエキノコックス症予防のために-)を参照のこと。

②対象動物の使用制限

- 本剤は、4週齢未満の犬には投与しないこと。
- 本剤は体重1.0kg未満の犬には使用しないこと。
- 本剤に対し過敏症の犬には使用しないこと。

③重要な基本的注意

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- 犬糸状虫感染犬に投与する場合は、成虫及びマイクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い、陰転してから実施すること。
- ミルベマイシンオキシムの試験において、コリー犬及びその系統の犬種は他の犬種に比べ、安全域が狭いことが示されていることから、これらの犬種に対しては、用法・用量を厳密に守ること。
- 本剤投与前に必ず血液検査を行い、マイクロフィラリアがないことを確認した後、投薬を行うこと。
- 重度に衰弱した犬、重度の腎・肝障害の犬に対する安全性は確立されていない。これらの動物に対しての投与は推奨されないが、やむを得ず使用する場合には本剤投与により対象動物の健康が維持される等ベネフィットが得られるかどうか獣医師が慎重に判断した上で投与すること。
- 妊娠中及び授乳中の雌犬、又は繁殖期の雄犬に対する反復投与と安全性試験により本剤の安全性を確認しているが、一般的にこれらの動物に対する薬剤の投与はリスクを伴うので、母犬の健康維持が優先される場合など本剤投与のリスクとベネフィットを考慮し、投与の可否を獣医師が適切に判断した上で投与すること。
- 本剤の再投与の必要性の判断は投与後の検査の結果に基づいて行うこと。犬の生活環境により寄生虫の再感染が懸念される場合には、定期的な再検査及び再投与を推奨する。
- 本剤による条虫類駆除の確認の際、体節がバラバラになり半透明の状態で排出されるので注意深く観察するよう飼い主に指導すること。

④相互作用

- マクロライド系化合物、他の犬糸状虫予防薬、並びに犬回虫、犬鞭虫、犬鉤虫、瓜実条虫及び多包条虫の駆除薬剤と本剤の併用については安全性が確認されていないことから併用しないこと。

⑤副作用

- 本剤の投与により、ときに一過性の嗜眠がみられることがある。
- 犬糸状虫感染犬に投与した場合、元気消失、食欲不振、嘔吐、呼吸速迫、大静脈症候群等の症状が現れることがあるとの報告がある。
- 海外での定期安全性報告において、非常に稀な頻度で、嗜眠、嘔吐、過流涎、下痢、振戦、不活発及び食欲低下が報告されている。
- 海外で実施した臨床用量1.3.5倍量7週間又は13週間連続経口投与安全性試験において、流涎、嘔吐、運動失調、不活発、振戦が報告されている。

⑥その他の注意

- エキノコックス症は人獣共通感染症であり、ヒトにおいては感染症法第4類感染症に指定されている。獣医師は発見後、直ちに保健所へ届け出ること。



©登録商標

製造販売業者(輸入販売元)

エランコジャパン株式会社
東京都港区赤坂四丁目15番1号

製品お問い合わせ窓口 ☎ 0120-162-419
月～金 / 9時～12時、13時～17時(祝祭日及び会社休業を除く)

ISC-00-0000-LMN

ワイドな効能だから、定期駆虫の推進が可能

通年予防が必要な寄生虫までカバーしているので、オーナー様に無理なく定期駆虫を習慣づけることができます。その結果、フィラリア予防薬の投与月の厳守(コンプライアンスの向上)にもつながります。

通年投与の推奨

海外のガイドラインでは、人獣共通感染症(ズーノーシス)を防ぐため、**広域な駆除薬の通年投与を推奨**しています。

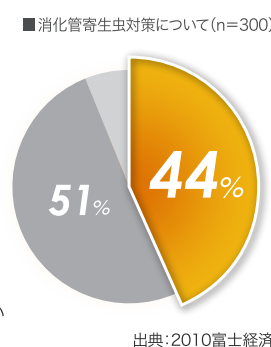
「フィラリアおよびズーノーシスの原因となる消化管内寄生虫に効果のある広域の寄生虫駆除薬を通年で投与する事」

(CAPC: Companion Animal Parasite Council)
Administer year-round broad-spectrum parasite control with efficacy against heartworm, intestinal parasites with zoonotic potential...

消化管寄生虫の予防方法

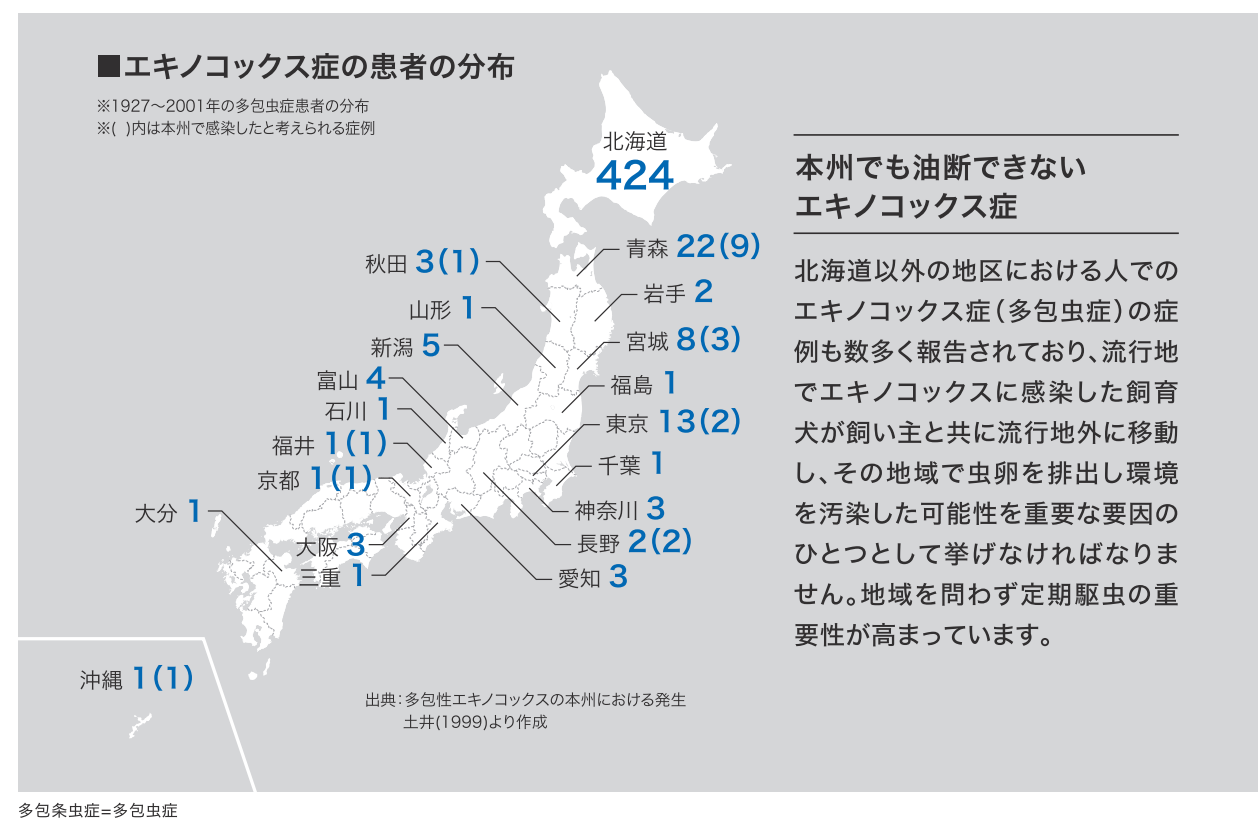
犬の消化管内寄生虫対策については、40%以上の先生が「**フィラリア予防薬で兼ねれば充分**」と考えています。

■ フィラリア予防薬で兼ねれば充分
■ 消化管寄生虫専用薬の使用が望ましい
■ その他



犬からも感染するエキノコックス症

エキノコックス症(多包条虫症)は、人獣共通感染症(ズーノーシス)です。人が感染すると外科的手術による病巣の切除以外根治の道がないことから、愛犬の定期駆虫を行い人への感染リスクを減らすことが重要です。



本州でも油断できないエキノコックス症

北海道以外の地区における人でのエキノコックス症(多包虫症)の症例も数多く報告されており、流行地でエキノコックスに感染した飼育犬が飼い主と共に流行地外に移動し、その地域で虫卵を排出し環境を汚染した可能性を重要な要因のひとつとして挙げなければなりません。地域を問わず定期駆虫の重要性が高まっています。

4つのサイズで幅広く対応

愛犬の体重に合わせてサイズをお選びください。

チキン
フレーバー

体重	投与量	形状(実物大)
1.0kg以上4.5kg以下	インターセプターS チュアブル S を1個	
4.5kgを超え11kg以下	インターセプターS チュアブル M を1個	
11kgを超え22kg以下	インターセプターS チュアブル L を1個	
22kgを超え45kg以下	インターセプターS チュアブル LL を1個	
45kgを超える場合	上記の錠剤を適切に組み合わせる。	—

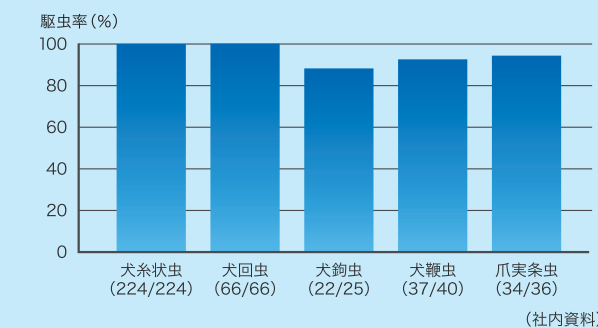


信頼の有効成分は、データでも実証されています。

実証データ1 確かな有効性

寄生虫種別の駆虫効果は、犬回虫、犬鉤虫、犬鞭虫、瓜実条虫のいずれも高い値でした。

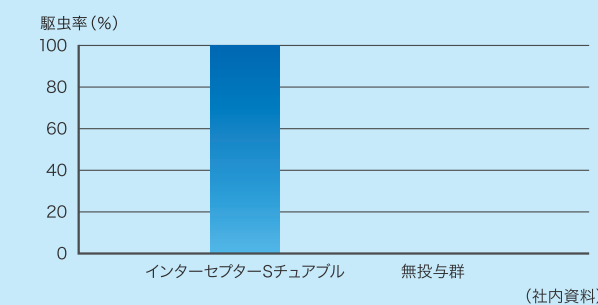
【試験概要】犬回虫・犬鉤虫・犬鞭虫・瓜実条虫の何れか単独又は混合寄生が確認されている症例を対象とし、犬体重1kg当たりミルベマイシンオキシム0.5mg、ブラジクアンテル5mgを基準量として経口投与した結果、犬回虫については100%(66/66症例)、犬鉤虫については88%(22/25症例)、犬鞭虫については92.5%(37/40症例)、瓜実条虫については94.4%(34/36症例)の駆除効果が確認された。



実証データ2 多包条虫への駆虫効果

多包条虫に対する高い駆虫効果も確認されています。

【試験概要】多包条虫の原頭節を供試動物の胃内へ強制経口摂取し、その20日後に被検薬を単回経口投与したところ無投薬群が1頭当たり平均49.970匹の虫体が認められたのに対し、被検薬投与群での有効率は100%であった。



実証データ3 速やかな血中への移行

	ミルベマイシンA ₁ オキシム*	ブラジクアンテル
Cmax(最高血中濃度)	229±32ng/mL	506±190ng/mL
Tmax(最高血中濃度到達時間)	1.0時間	0.8時間
t _{1/2} (半減期)	88.05±32.33時間	1.23±0.34時間

*ミルベマイシンオキシムはミルベマイシンA₁オキシム及びミルベマイシンA₂オキシムがそれぞれ約8:2の割合からなる物質である。表中の値は中央値 (申請資料より)

実証データ4 繁殖犬への安全性の確認

	方法	結果
妊娠中及び授乳中の犬に対する反復経口投与安全性試験	妊娠中及び授乳中の雌ビーグル犬に、ミルベマイシンオキシム及びブラジクアンテル配合剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25mg/kg)を1週間に1回、交配前(最大10週間)、妊娠期(10週間)並びに授乳期(10週間)を通じて反復経口投与し、母犬及びその産子に対する安全性を確認した。	母犬の臨床症状並びに繁殖成績に被験薬投与に起因する異常は認められなかった。また産子においても、臨床症状や産子数に被験薬投与に起因する異常は認められなかった。従って、妊娠授乳期における本剤の安全性が確認された。
雄犬の繁殖学的機能に対する反復経口投与安全性試験	雄ビーグル犬に対し、ミルベマイシンオキシム及びブラジクアンテル配合剤の臨床適用最大量(ミルベマイシンオキシム2.5mg/kg、ブラジクアンテル25mg/kg)を1週間に1回、合計9回反復経口投与し、繁殖学的影響について確認した。	投薬期間中の臨床所見に異常は認められず、精液性状、精子運動性、生存精子数及び生存率に異常は認められなかった。従って、繁殖期の雄犬における本剤の安全性が確認された。